

M-4a がん疼痛事例検討（腎細胞がん） ワークシート

症例：59歳男性、左腎細胞がん、肺転移、骨転移、肝転移

経過：X年 5月 腰痛と咳嗽が出現、咳嗽時の胸痛もあったため、近医を受診
胸部X線 右中肺野に異常陰影を認め精査目的にA病院を受診
左腎細胞癌、肺転移と診断
6月初旬 入院時の腹部CTで肝転移・腰椎転移も指摘された
PSは1で左腎摘出術施行、その後スニチニブ投与開始
腰痛は、ロキソプロフェン 180 mg/日と、モルヒネ硫酸塩徐放性製剤 40 mg/日の投与で緩和されていた

12月自覚症状に変化はなかったがCTにて肺転移、肝転移は増大傾向があり分子標的薬をエベロリムスに変更

X+1年 3月 右上腕痛、左側腹部痛、両側大腿外側部痛が出現したためA病院に入院することとなった

上腕、腰の痛みはズキズキする痛みで、体動時に増強、一晩に数回、寝返りをする
と痛みのために目が覚めると訴える

疼痛の程度は安静時にはNRS 3~4/10、動作時には8~10/10

左側腹部の痛みは、びりびりと電気が走るような痛みでNRS 4/10

両側大腿外側の痛みは進行性で下肢の知覚障害も徐々に出現するようになってきた
痛みのためにほとんど一日中ベッドで過ごしている

X線所見：右上腕骨骨頭部への溶骨性骨転移と病的骨折がみられた

CT所見：肝S1の転移、L1,Th12の転移、L1転移は脊柱管内への進展がみられた

生活歴・家族歴：

職業：会社員（製造業）、休職中

趣味：釣りが好きで、毎週末に行っていた

家族：妻は5年前に他界、現在は共稼ぎの長男（キーパーソン）夫妻と3人暮らし
結婚した長女が同じ市内に在住し、病状説明や外来診療時に同席することが多い。

長女には幼稚園に通う4歳の子供がいる

病状認識

*病名と病状の拡がり、治療経過については説明されている

*分子標的薬が無効であることや予後についてはまだ説明されていない

*主治医は予後を3ヶ月程度と予想しこれ以上の分子標的薬は現状では困難と考えている

*本人は元気になって復職したい、釣りに行きたいと考えている

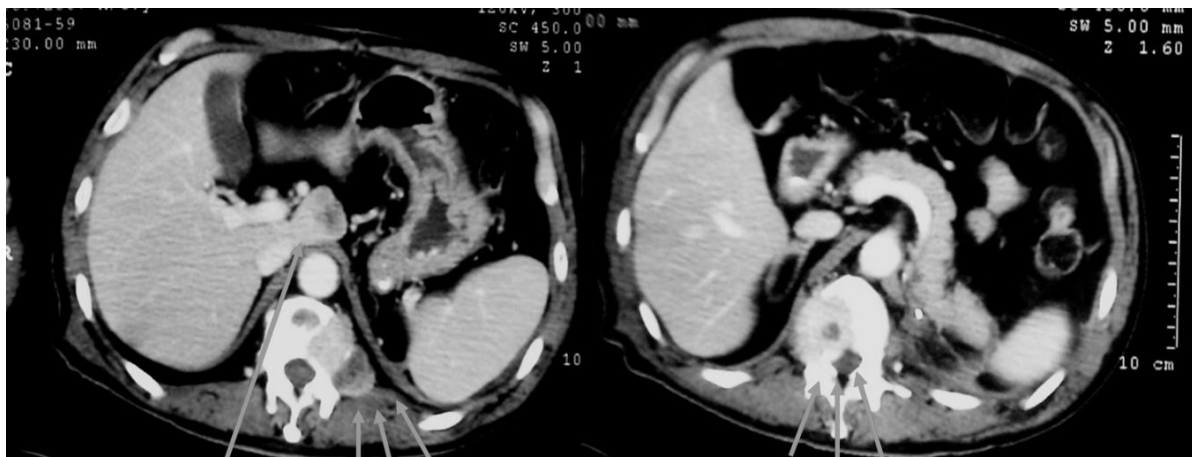
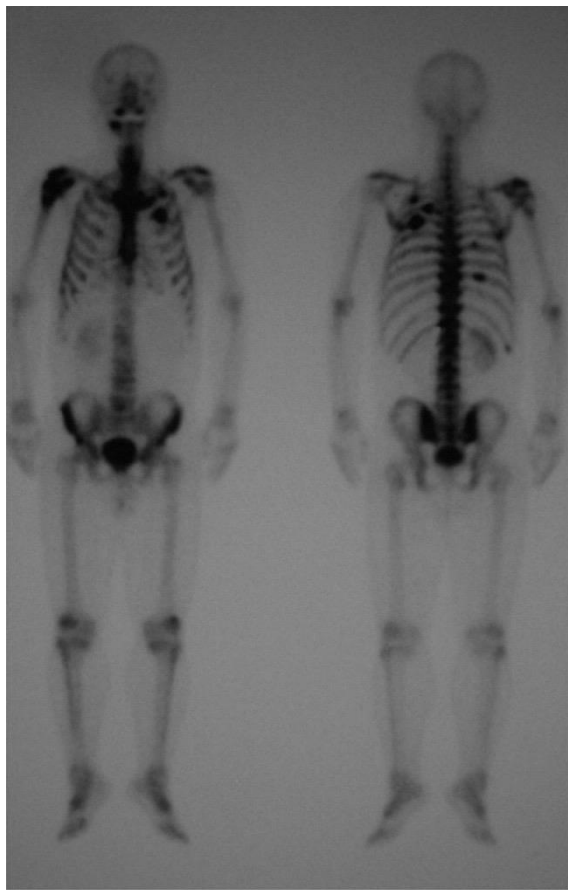
*孫の小学校入学を楽しみにしている

*一方で下肢の症状が出現・進行することに、不安を訴えている

課題 1) この患者の痛みをどのようにアセスメントしマネジメントしていくか？

- ・ 痛みの原因や状態について評価する
- ・ 具体的な処方を計画する
- ・ 痛みとともに認められる身体症状があれば、それについても検討する
- ・ 薬物療法以外の治療やケアについての検討課題

2) 身体症状以外の問題にどのようなものがあるかを検討し、その対処方法を考える



肝S1への
転移巣

Th12への
転移

L1への転移
及び脊柱管内への進展がみられた